



市民ネットワーク鶴ヶ島は  
大野ひろ子を  
市議会に送っています

ネ	ツ	ト
通	信	

NO. 8

6月議会報告 2013.7  
発行 / 市民ネットワーク鶴ヶ島  
鶴ヶ島市富士見2-12-15



<http://www.tsuru-net.org/>

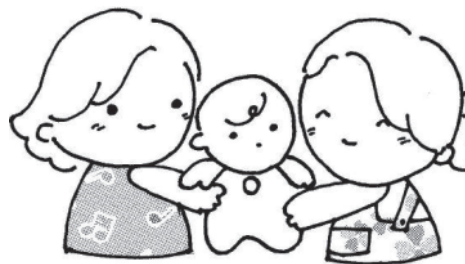
# もっと、 子育てしやすい環境を！

日本は現在、世界で最も高齢化の進んでいる国であり、人口も減少傾向にあって、統計では2055年には総人口が9,000万人を下回り、総人口に占める65歳以上の割合が41%にもなることが見込まれています。

少子高齢化社会の大きな原因の一つとして出生率の低下があげられています。そのため、出生率低下に歯止めをかけるべく「子どもを産み、育てやすい社会」の創設を目指して子ども・子育て支援法が制定されました。  
(平成27年4月施行)

支援法の大きな柱である「認定こども園」制度は、幼稚園機能と保育所機能を併せ持つ施設として、平成18年にスタートしました。しかし、施設整備等の補助がないこと、手続きが厚生労働省、文部科学省の二重行政になっていくなどがハードルとなりあまり進んでいないのが現状です。

今後、「認定子ども園」が一般的



になれば、両親が働いているかどうかに関わらず子どもを預けられます。子育ての選択肢が広がると同時に待機児童も解消されると期待されています。

**安心して働く場所の実現を！**

現実には育休を3年どころか、むしろ1年未満で職場復帰することが多くなっています。ワークライフバランスの意図するところは、女性も男性も、そして、子育ても仕事も両立するところにあります。

保育所の整備だけでなく、幼児期は4時までの時間短縮勤務や週3〜4日の出勤等柔軟な勤務条件が必要です。こういったインフラ整備もされていかなければ根本的な課題は解決しないのではないのでしょうか。将来を担う子どもたち、そして子育ての環境を良くしていくことが少子高齢化社会に向かう重要な施策といえます。

\*認定子ども園とは都道府県が「認定」した、幼稚園と保育園と一緒にした、いわゆる「幼保一元化」のための施設です。